

令和7年度 学校評価報告書 (目標設定 (実施結果))

| | 視点 | 4年間の目標 (令和6年度策定) | 1年間の目標 | 取組の内容 | | 校内評価 | | 学校関係者評価 (3月12日実施) | 総合評価 (3月30日実施) | |
|---|--------------|---|---|--|---|---|--|---|--|---|
| | | | | 具体的な方策 | 評価の観点 | 達成状況 | 課題・改善方策等 | | 成果と課題 | 改善方策等 |
| 1 | 教育課程 学習指導 | ①学習指導要領の目標に照らしたより良い教育課程を編成する。 ②「自ら未来を切り拓く人材」の育成に向けた継続的で一貫した意識付け・動機付けを実践する。 | ①単位制の特色を活かした教育課程を改善し、より充実した履修指導を行う。 ②1人1台端末やICT機器の活用により、生徒の論理的思考力やデータ活用のスキルの育成を図る。 | ①生徒の希望進路実現のため、多岐にわたる選択肢から適切な履修計画を立てさせる。 ②研修、研究授業の充実を図り、全ての教科でプログラミング教育の推進に取り組む。 | ①履修計画作成にあたり、適切な履修指導が行われたか。 ②十分な研修、研究授業は行われたか。生徒にプログラミング的思考やデータ活用のスキルを身に付けさせることができたか。 | ①新2年次、新3年次ともに履修指導が適切に行われた。また、教育課程の見直しを検討し、改善した。 ②プログラミング教育の公開研究授業と互見授業の連携を進め、プログラミング教育の意識を高められた。また、DXハイスクールの研修会や講演会も計画どおり実施した。 | ①教育課程見直しの過程で出た意見をもとに、よりよい教育課程の編成を考えていく。 ②プログラミング教育研究推進校としての取組みに加え、DXハイスクールに係る研修会等を、一層充実させる。 | ①生徒の希望に配慮した指導が行われている。また、教育課程の見直しを進め、さらに良いものへと改善している。 ②計画に沿って、おおむね目的が達成できている。 | ①生徒の履修希望を満たす時間割を作成できた。また、週に一度の7時間目授業を解消するめどが立った。 ②職員への働きかけは研修会などを通じてできているが、生徒への意識付けが弱い。 | ①見直した教育課程で生徒の履修希望が実現できるように、検討を進めていく。 ②授業の中でプログラミング的思考をどのように展開するか、さらに研究する必要がある。 |
| 2 | 生徒指導・支援 | ①様々な生徒の状況を把握し、個々に対応した支援体制を構築する。 ②学校行事等を通じて生徒が主体的に取り組む態度を育む。 | ①支援を必要とする生徒を把握し、必要な支援と校内での情報共有を密にする。 ②行事内容を検討し、生徒が考える形に沿い主体的に取り組めるよう支援をする。 | ①年次会等を通じて支援を要する生徒を把握し、具体的施策を検討する会議を開催する。 ②実行委員会等を通じて生徒の意見を聞き、行事に反映させる。 | ①SC・SSWを含め職員間で支援が必要な生徒を把握し、情報共有と支援ができたか。 ②実行委員会等を通じて生徒の意見を吸い上げ、計画・実行できたか。 | ①教育相談コーディネーターが中心となってケース会議を開催し、注意点など細かいことまで情報共有ができた。 ②体育祭・文化祭では生徒が主体となって実行し、充実した行事にできた。 | ①支援が必要な生徒への対応が後手にならないよう情報収集する。 ②早めの計画立案を心がけ、準備作業が滞らないようにする。次年度以降も実施時期を検討していく。 | ①教育相談コーディネーターが中心となって支援体制を整え、相談に適切に対応している。 ②生徒の意見が学校行事に反映されるように十分な配慮がされている。 | ①メンタル面や人間関係に支援を必要とするケースが引き続き増加傾向にある。 ②学校行事を生徒が主体となって取り組むことができた。 | ②情報の共有を図り、組織として早めに支援できる体制を整える。 ②行事後の反省を踏まえて、早めに次年度の準備を進めていく。 |
| 3 | 進路指導・支援 | ○自らの進路を主体的に切り開いていくため個に応じたキャリア観を育成し、進路指導の充実を図る。 | ○生徒個人に応じて3年間を見通した進路計画を策定し、進路実現を目指す。 | ○3年間の進路計画を提示し、適切な時期に進路実現を目指すための講演会やガイダンスを充実させる。 | ○3年間の進路計画に沿った方策が実現できたか。また、それが適切な時期や内容であったか。 | ○生徒の状況にそった進路計画を立てた。またガイダンスを各年次で適切な時期に開催することができた。 | ○3年次の模試の日程を学校行事と照らし合わせて進めていく。 | ○入試の多様化が進んで指導が大変になっていると思うが、生徒の希望が叶うよう取り組んでほしい。 | ○大学入試の多様化や奨学金の拡充が進んでいるので、情報を生徒や保護者に早めに伝えていく必要がある。 | ○早めに情報を収集し、生徒や保護者に必要な情報を取捨選択して提供する。 |
| 4 | 地域等との協働 | ○生徒の社会参画の意欲向上に努め、地域等との連携・協働による教育活動の充実を図る。 | ○学校行事等を通じて、生徒と保護者・地域住民との交流を深める。 | ○学校行事等で地域の方と連携を深め、事前学習を行って社会と関わることの大切さと、社会に貢献する態度を育成する。 | ○学校行事等を通じて、学校と地域住民との連携を深めることができたか。 | ○PTAの協力により体育館内壁の再塗装を実施した。また、地域の協力を得てホテル観察会を実施した。 | ○PTAや地域との連携をさらに深めて、教育環境や教育内容の充実に努める。 | ○教育環境の整備が生徒と保護者の理解と協力をもって進められている。 | ○ボランティア活動や地域貢献活動は予定通り実施することができた。 | ○活動の意義を生徒に理解させ、積極的に参加するよう働きかけていく。 |
| 5 | 学校管理 学校運営 | ①教育環境を整備し、より快適な学校づくりを進める。 ②職員の働き方改革を実現する学校管理体制を追求する。 | ①生徒が安全安心に過ごせる快適な校内環境を整備する。 ②業務の効率化を進め、業務に専念しやすい環境を整える。 | ①老朽化した設備・備品を順次更新するために、状況を把握し対応を進める。 ②ICT機器の利活用やシステムの工夫を行い、業務の効率化を図る。 | ①校内環境に対する生徒や保護者の評価が高まったか。 ②事務作業の軽減が図られ、超過勤務時間が減少したか。 | ①体育館床面の全面改修、教室及び階段照明のLED化等を実施した。 ②職員室・事務室・会議室のオフィス改善計画を策定した。 | ①老朽化した設備・備品の改修や交換を計画的に実施していく。 ②来年度のオフィス改善へ向けて準備を進めていく。 | ①老朽化した設備・備品を計画的に更新できているようである。 ②職員の働く環境については、ICT等の活用により業務の効率化が進められている。 | ①高額設備更新が必要な部分については、更新が進んでいない。 ②事務作業の軽減は図られているが、部活動指導については軽減が進んでいない。 | ①効果的な更新ができるよう優先順位を検討する。 ②職員の長時間労働に対する意識を変えていく必要がある。 |

